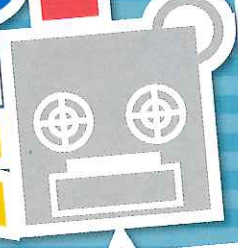


# 次世代 ロボット の未来



オープンキャンパス同時開催

2011.8.5 (fri)  
14:00~15:00 (受付時間 13:30~14:00)

受講料  
無料

近年、少子高齢化や天災の影響で安全で安心して暮らしていける社会を実現するためにロボットテクノロジーに対する期待が高まっています。  
また、ロボットテクノロジーを学びたいという学生の要望も強くなってきており、山形大学大学院理工学研究科では機械システム工学専攻を中心に次世代ロボットデザインセンターを立ち上げました。「ロボット大国」と呼ばれる日本の未来を支えるロボットとはどのようなものなのでしょうか。  
本講座では、このセンターに所属する教員が私たちの生活に密着したロボット工学の未来をご紹介します。ぜひご参加ください。



会場 4号館中示範B教室 受講対象 中学生・高校生・一般 募集人数 200名

講演1  
14:00~14:30

「ヒトと融合する機械／機械と融合するヒト」  
機械システム工学専攻デニュアトラック教員 助教 菊池 武士

講演2  
14:30~15:00

「世界に貢献する日本のロボット工学」  
機械システム工学専攻デニュアトラック教員 助教 多田 隼 理一郎

参加申込方法

必要事項を記載の上、FAXまたはメールにてお申込みください。  
※当日の参加も歓迎いたします。  
メールでお申し込みの際には、件名に「ロボット工学講演会」と記載願います。  
連絡先：〒992-8510 山形県米沢市城南4丁目3-16  
担当：山形大学工学部総務課 研究支援室  
「ロボット工学講演会」係  
TEL / 0238-26-3585  
FAX / 0238-26-3240 ※FAXでお申し込みの方は下部をご記入の上ご送信ください。  
E-mail / edison@yz.yamagata-u.ac.jp  
URL / http://www.yz.yamagata-u.ac.jp/



ロボット工学講演会 参加申込

フリガナ		所 属 (学校・勤務先名)	
氏名		メー ル ア ド レ ス	
電話 番号	(      )		

個人情報の取り扱いについて 一 登録いただいた情報は、参加者の確認にのみ利用させていただきます。

# 「工学の新風」肌で実感

## 山太工でオープンキャンパス

山形大学工学部で5日、オープンキャンパスが開かれ、全学科による模擬講義や80以上の研究室の公開が行われた。目玉企画として、城戸淳二教授が世界的にも例が少ない研究拠点として開設された有機エレクトロニクス研究センターを案内したほか、「次世代ロボットの世界」と題した講演会も一般公開され、訪れた高校生らが近未来の「工学の新風」を肌で感じた。

有機エレクトロニクス研究センターの第一人者ス研究センターの見学には、中学、高校生、一般から定員を上回る50人以上が参加。有



城戸教授(右)が有機エレクトロニクス研究センターを案内した

介した。

同施設は、有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタの3部門で構成し、卓越研究教授を核に、世界一の研究拠点を目指して、今年4月に開設された。参加者は1階クリーンルームと2階有機太陽電池の研究施設を見て歩いた。

太陽電池を研究している2階では、城戸教授が透明なガラス状の有機太陽電池について「窓ガラスなどに使用する事で、家庭内の電気をまかなっていけるのではないかと将来の展望を語ると、参加者はまだ見ぬ未来の生活に思いをはせた。埼玉県から参加した落合優登君(17)は「あれほど薄く透明なもの

に電気が発生することに驚いた」と話していた。

また、「次世代ロボットの未来」と題された講演会では、同大のロボット分野の教授2

人がそれぞれ講演。このうち、機械システム工学専攻でニューアトラック教員の菊池武士助教授は「ヒトと融合する機械/機械と融合する人」と題して、これからのロボットについて語った。

菊池助教授は、「これまでロボットが産業型なら、今後は協調型」などと解説。人の能力を補う「電動装

具」、あるいは「サブリーグ」のように、「ロボットが人に近づいてくると述べた。またサルや人間の脳に電極を刺す実験や、ネズミの脳に電極を刺し、ネズミを操る実験例を挙げ、「人とロボットは融合していく。今後は安全性を議論する時代にくのだろう。」などと言っていた。